

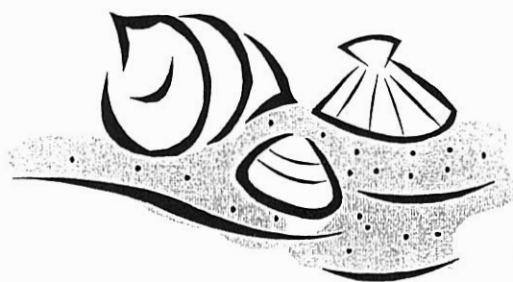
京都橘大学

★入試対策講座★

8月7日(日)

10:00~11:00

国語



稲原 彰 講師

代々木ゼミナール

京都橘大学 合格へのレシピ国語

☆全体的な傾向

昨年度からの大きな変更として、二〇二二年度入試より、古文・漢文からの出題がなくなる。既に大学のホームページなどでも公表されているので、知っている受験生も多いかと思うが、時間配分に変更が出るので注意が必要だ。

具体的には、従来、出題されていた古文読解の問題がなくなり、現代文と国語常識問題のみになる。古文が減った分だけ、個々の設問の数は増えると予想されるので、過去問プラスアルファの設問数と考えておこう。全体の制限時間は推薦約四〇分・一般入試六〇分に変化はない。

(時間配分の目安)

国語常識に一〇分程度、残りを現代文にまわすイメージ。

昨年度より現代文にかけられる時間が増えた。その分だけ丁寧に文章を読んで対応したい。

☆現代文の傾向と対策

過去問を見る限りでは、評論文から出題されている。抽象的なテーマが論じられており、内容的にも高度で、やや難しい印象を受けるかもしれない。ただし、論じられている内容そのものは、学校の教科書で扱われているレベルである。特別な技術や知識に頼るのではなく、高校の授業で身につけたことをもとにして文章を読むことが大切だ。具体的には、何が話題であるかに注意を向けながら、丁寧に文脈を読み取ることが心掛けよう。

出題内容は、空欄補充・傍線部の内容説明・脱文挿入・内容一致などで、いずれも現代文の問題としては、よくあるパターンである。本学の過去問を中心に、他の私立大学にも手を伸ばして、広く過去問演習を積んでおくことが最大の受験対策になる。

また、空欄を補う設問で、いわゆるカタカナ言葉を入れさせる設問が見られる。だからといって、特別な対策が必要というわけではなく、比較的身近な、よく見かける言葉に関しては、カタカナ言葉に限らず、敏感かつ貪欲に意味を問う姿勢を保つことのほうが大切だろう。

☆国語常識問題の傾向と対策

過去問を見るかぎりでは、文学史と語句の知識から出題されるというパターンが多い。

文学史は古文の領域から近現代まで幅広く出題されており、ひと通りは文学史の知識を整理しておきたい。高校で購入した「国語便覧」を上手く活用することをお薦めする。

また、語句の知識に関しては、四字熟語・ことわざ・慣用句などから出題される。二〇一〇年度は四字熟語の欠けた一字を補う問題であったが、過去問を通覧すると、こればかりにとらわれてはいけないことが分かる。格別に難しい言葉が問われるわけではないが、知らないと対応できない。語句の知識に関しても、ひと通りの整理が必要だろう。